

令和7年

季刊

夏季号

Vol.94

亞東



通常総会・懇親会 令和7年5月21日



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名 Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南俱樂部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、俱樂部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月二六日「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」 令和七年 夏季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷

二頁

目次・協会役員名簿

三頁

令和七年度 第七六回通常総会修了の報告

四頁

令和六年度 事業報告書

五頁

決算報告書

七頁

令和七年度事業計画書・収支予算書

一〇頁

令和七年度通常総会・懇親会

一二頁

春雨を右肩傘に 台北から台東へ

業務執行理事 榎本 有里(林 月理)

一八頁

暑中見舞い広告

二〇頁

令和6年6月20日 現在

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	山本順正	張岩	建国善信	張	碧華				
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮							
理事	25名								
	衛藤征士郎	張山 建国	張山 碧華	山本 順三	並木 正芳				
	赤松則宏	藤山雅康	益山山	笹岡明	森岩田				
	岩城光英	榎本有里	富田富	石沢正	浅見				
	多田忠貴	李ハ口ル	平岩	岡本宏	御山				
	柴田徳光								
監事	2名	鈴木 慶一		吉原 徹					
事務局		赤松 則宏		李 孔曉					

一般社団法人 日本台湾親善協会

令和七年度 第七六回通常総会修了の報告

一般社団法人 日本台湾親善協会 事務局

拝啓 青葉若葉の候、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る五月二一日に開催しました当協会の第七六回通常総会は各位のご協力を得まして、下記の通り全議案を滞りなく承認可決致しました。

就きましては、今後とも、会員一同並びに関係各位の協力のもとに、総会決議に基づき、各種の事業活動を一段と活発に進めてまいる所存でございます。

何卒、尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先ずは、総会終了のご報告方々ご挨拶申し上げます。

敬具

記

(出席者)

一四四名（委任状を含む）定款第一五条第一項の規定により適法である旨を事務局より報告。

衛藤征士郎氏が議長に選出され総会議事に入った。

議事録署名人選出の件について議長が計り、張碧華、浅見哲氏兩名が選出されました。

(決議事項)

第一号議案 令和六年度事業報告承認の件

第二号議案 令和六年度収支決算報告承認の件

以上の各議案について監査報告がなされ、それぞれ報告書の通り承認可決されました。

その他 事項報告

「令和七年度事業計画」並びに「令和七年度予算」につきましては、新法人法により理事会承認事項となり四月二一日第一回理事会において承認されましたことを報告しました。



令和六年度 事業報告書

〔令和六年四月一日から令和七年三月三十一日まで〕

当協会が本年度の事業計画に基づいて実施した各種事業活動について、その主な事項をご報告申し上げます。

一、組織の強化及び会員の増強

新法人への移行一三年目を迎え、会員の増強並びに協会組織力の強化に努めた。

二、会員の移動状況

新加入会員八名

三月三十一日現在会員総数二七八名

（個人、法人、賛助（理事、他）会員を含む）

三、親善交流・文化活動

親善交流の基本理念として相互の歴史、伝統文化の理解がより一層の交流を深める、その為の各種会活動、研修会、講演会等の開催と共に活発な文化活動の推進をした。

四、講演会の開催

講演の内容：『世界構造変化と東アジアの視界』

台湾を認識するか』

講師：一般財団法人 日本総合研究所

会長 寺島 実郎 先生

日時：令和六年六月二〇日 木曜日

会場：海運クラブ

参加人員：一八〇名

〈事業の対象者〉 参加者は社員、一般参加者、学生、留学生、等で参加に関して制限はない

〈参加者募集方法〉 会報にて案内、ホームページに掲載

〈委託の有無〉 自主事業であり委託していない

五、日台親善交流の旅

① 令和六年五月一九日（日）～五月二一日（火） 二泊三日

令和六年度事業計画に基づき台湾訪問団を実施、一六名の参加、總統就任祝賀式典、總統就任式前夜祭、台南での国宴の参加

② 令和七年二月二〇日（木）～二月二二日（土） 二泊三日

令和六年度事業計画に基づき台湾訪問団を実施、一二名の参加、蕭美琴副總統表敬訪問、卓榮泰行政院長表敬訪問、立法院江啓臣副院長昼食会、立法院亜東議員交流協会表敬訪問、台湾日本関係協会蘇嘉全會長昼食会、台北

市政府蔣萬安市長表敬訪問友好親善に努めた。

六、会報「亜東」の発行

季刊「亜東」を年四回（春、夏、秋、新春の発行で各回一、〇〇〇部）会員他、関係各位に配布。

七、会議の開催

令和六年四月一七日（水） 定例理事会 砂防会館会議室

” 六月二〇日（木） 令和六年度通常総会

海運クラブ

” 九月一日（水） 定例理事会 砂防会館会議室

” 一二月 四日（水） 定例理事会 明治記念館

令和七年二月 六日（木） 定例理事会議 ルポール翹町

” 二月 六日（木） 新春互礼の開催 ルポール翹町

” 三月二四日（月） 定例理事会 砂防会館会議室

八、会の緒活動・事業報告

令和六年四月一四日（一財）台湾協会交礼台湾の会に並木

副会長出席祝意を表す

五月 二日 台湾地震義援金の寄附

六月二〇日 謝長廷駐日大使に感謝状、記念品の贈呈

一〇月六日 東京華僑総会主催双十節慶祝大会に祝

意を表す

一〇月七日 当協会理事益山茂氏お別れ会に理事多

数弔意を表す

一〇月七日 横浜華僑総会主催双十節慶祝大会祝意

を表す

一〇月七日 国士館大学主催元台湾海軍上将、元自

衛隊統合幕僚長の講演「日本の安全保障政策の現状と課題」理事多数出席

一〇月八日 台北駐日経済文化代表処主催国慶節大

会に衛藤会長出席、祝意を表す

令和七年一月二〇日 横浜華僑総会主催新年会祝意を表す

決 算 報 告 書

令和 6 年度

令和 6 年 4 月 1日

令和 7 年 3 月 31日

(7 6 期)

1. 正味財産増減計算書
2. 貸借対照表
3. 会計業務監査報告書
4. 事業計画書
5. 収支予算書

東京都千代田区平河町 2 丁目 7 番 4 号
砂防会館 別館 2 階
一般社団法人 日本台湾親善協会

正味財産増減計算書

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日（決算）まで

法人名： 股 社 団 法 人 日 本 台 湾 親 善 協 会

事業名： 事業全体 法人本部

（単位： 円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
経 常 増 減 の 部			
受 取 会 費	7,389,000	7,721,000	▲332,000
個人会員受取会費	3,459,000	3,641,000	▲182,000
法人会員受取会費	3,930,000	4,080,000	▲150,000
事業収 益	8,566,649	7,393,330	1,173,319
行事開催会費	6,016,649	4,713,330	1,303,319
広告掲載費	700,000	800,000	▲100,000
時局講演会	1,850,000	1,880,000	▲30,000
受取寄付金	332,000	0	332,000
受取寄付金	240,000		240,000
受取寄付金振替額	92,000		92,000
雑収 益	1,205	20	1,185
受取利息	1,205	20	1,185
経 常 費 用 計	16,288,854	15,114,350	1,174,504
事業費	7,872,495	6,754,012	1,118,483
行事費	6,430,981	5,213,994	1,216,987
刊 載 費	917,433	791,080	126,353
同 演 費	294,081	748,938	▲454,857
支 払 費	230,000		230,000
管理費	7,253,689	7,491,821	▲238,132
給 料 費	3,442,000	3,407,000	35,000
法 定 福 利 費	86,504	530,171	▲443,667
会 議 費	96,918	176,594	▲79,676
旅 費 交 通 費	392,400	396,800	▲4,400
通 信 費	360,977	238,840	122,137
減 価 償 却 費	74,066		74,066
事 務 消 耗 品 費	187,474	102,437	85,037
支 払 手 数 料	79,903	46,198	33,705
貸 借 料 費	2,032,588	2,030,765	1,823
渉 外 費	419,659	493,016	▲73,357
租 税 公 課	81,200	70,300	11,200
経 常 費 用 計	15,126,184	14,245,833	880,351
経 常 外 増 減 の 部	1,162,670	868,517	294,153
評 価 損 益 等 計	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額	1,162,670	868,517	294,153
経 常 外 収 益 計	0	0	0
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	1,162,670	868,517	294,153
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	3,189,077	2,320,560	868,517
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	4,351,747	3,189,077	1,162,670
II 指定正味財産増減の部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正味財産期末残高	4,351,747	3,189,077	1,162,670

貸 借 対 照 表

令和 7 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：一般社団法人 日本台湾親善協会

事業名：事業全体 法人本部

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	3,967,346	3,158,673	808,673
現 普 通 預 金	140,921	182,957	△42,036
郵便 貯 金	1,648,657	2,026,314	△377,657
流 動 資 産 合 計	2,177,768	949,402	1,228,366
固 定 資 産			
その 他 固 定 資 産			
電 話 加 入 権	108,858	108,858	
敷 金	300,000	300,000	
ソ フ ト ウ ェ ア	370,334		370,334
その 他 固 定 資 産 合 計	779,192	408,858	370,334
固 定 資 産 合 計	779,192	408,858	370,334
資 産 合 計	4,746,538	3,567,531	1,179,007
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
預 り 金	394,791	378,454	16,337
流 動 負 債 合 計	394,791	378,454	16,337
負 債 合 計	394,791	378,454	16,337
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産			
正 味 財 産 合 計	4,351,747	3,189,077	1,162,670
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	4,746,538	3,567,531	1,179,007

会計監査報告書

一般社団法人 日本台湾親善協会
会 員 各 位

令和 7 年 4 月 17 日

一般社団法人 日本台湾親善協会

監 事 吉原 徹 郎

監 事 鈴木 慶 一

私たちは、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い次の通り報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、各担当理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。公益継続事業における支出も目的達成していると判断した。
- (2) 事業報告の内容は内容であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正な行為又は法令等若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないと認める。

令和7年度事業計画書

(案)

[令和7年4月1日～令和8年3月31日]

理事会の開催

令和7年	4月	定例理事会
	5月	通常総会
	9月	定例理事会
	12月	定例理事会
8年	2月	定例理事会
	3月	定例理事会

事業

当法人は、民主主義と自由を信条とする台湾との政治、経済文化に関する調査・研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版、及び会員相互の親睦を図ることを目的として、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 我が国と台湾との文化、芸術の相互の紹介
- (2) 我が国と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋
- (3) 我が国に在住する台湾人々との交流事業
- (4) 台湾からの在日留学生に対する交流事業
- (5) 令和7年度に台湾表敬訪問団を派遣する
- (6) 季刊「重東」を年4回（春、夏、秋、新春）発行、会員外、関係各位に配布
（観光協会、中華学校、等）
- (7) 講演会を実施する
- (8) 継続事業の推進、本件事業についてホームページ広報誌を活用し事業活動の広報に努め市広く参加を呼びかける。
- (9) 後援、協賛事業の推進
友好団体との事業（講演会、研修会など）の後援、協賛を今後とも積極的に推進して行く。

前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業を実施する。

予 算 書

(対前年度決算比較)

自 令和7年 4月 1日

至 令和8年 3月31日

単位 円

科 目	今年度予算額	前年度決算額	差 額
事業活動収支の部			
I 事業活動収入の部			
1 会費収入	(8,300,000)	(7,389,000)	911,000
個人会員会費	4,000,000	3,459,000	541,000
法人会員会費	4,300,000	3,930,000	370,000
2 事業収入	(7,550,000)	(8,566,649)	△ 1,016,649
行事関係会費	5,000,000	6,016,649	△ 1,016,649
広告掲載収入	700,000	700,000	0
時局講演会	1,850,000	1,850,000	0
3 寄付金収入	0	(240,000)	△ 240,000
寄付金収入	0	240,000	△ 240,000
3 雑収益等	(1,300)	(1,205)	95
受取利息	1,300	1,205	95
当期収入合計	15,851,300	16,196,854	△ 345,554
II 事業活動支出の部			
1 事業費支出	(7,450,000)	(7,872,495)	422,495
行事関係会費	6,000,000	6,430,981	△ 430,981
季刊紙頁印刷費	950,000	917,433	32,567
時局講演会	500,000	294,081	205,919
寄付金支出	0	230,000	△ 230,000
2 管理費支出	(7,388,000)	(7,179,623)	△ 208,377
人件費	3,500,000	3,442,000	58,000
法定福利費	80,000	86,504	△ 6,504
会議費	100,000	96,918	3,082
旅費交通費	400,000	392,400	7,600
通信費	380,000	360,977	19,023
事務消耗品費	200,000	187,474	12,526
雑費送金手数料	48,000	79,903	△ 31,903
賃借料	2,100,000	2,032,588	67,412
渉外費	500,000	419,659	80,341
租税公課	80,000	81,200	△ 1,200
事業活動支出合計	14,838,000	15,052,118	△ 214,118
事業活動収支差額	1,013,300	1,144,736	△ 131,436
投資活動収支の部			
I 投資活動支出の部			
固定資産取得支出	0	444,400	△ 444,400
その他の固定資産購入支出		444,400	△ 444,400
投資活動支出計	0	444,400	△ 444,400
投資活動収支差額		-444,400	444,400
財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	77,933	0
当期支出合計	14,838,000	15,418,585	△ 580,585
当期収支差額	1,013,300	778,269	235,031
前期繰越収支差額	3,967,346	3,189,077	778,269
次期繰越資金差額	4,980,646	3,967,346	1,013,300

一般社団法人日本台湾親善協会

令和七年度通常総会・懇親会

【並木 正芳氏】

李大使もお越しになられましたので、早速懇親の会を始めさせていただきます。どうぞよろしく願います。

進行させていただくのは、副会長の並木でございます。どうぞよろしく願います。それでは、まずは衛藤征士郎会長よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

【衛藤 征士郎氏】

皆さん、こんばんは。今夕の懇親会にあたりまして、特に李逸洋（リー・イーヤン）大使閣下には、大変お忙しいところご

臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、中華民国の駐日大使はじめ大使館の幹部の皆さま、お忙しいところお揃いにご臨席いただき、誠にありがとうございます。

平素から、中華民国と日本国両国の親善交流のために、大変なご尽力を賜る大使閣下はじめ、皆さま方に、冒頭、心から敬意

を表し、感謝とお礼を申し上げます。

私ども一般社団法人日本台湾親善協会は、日本と台湾の友好・親善・交流、その一翼を担って取り組んでおりますが、先ほどの総会で、この両国の親善交流はもちろんですが、その連携につきましても、戦略的互惠、戦略的連携というふうに、一歩踏

み込んでいこうじゃないかという話になったわけがあります。

また、中華民国台湾サイドから見ても、日本台湾親善協会は頼りになるな、と思ってもらえるように、我々もこれから頑張っていかなきゃいけない、単なる親善交流・親睦団体であつてはいけない、という想いを皆さんだんだん強く持ってきたところでありまして、大事なことだと思えます。

そして現在は、賴清徳總統が、總統ご就任から一年間経過されました、読売新聞が特集しました。それを追うように、日経新聞や毎日新聞も特集していました。新聞がそれぞれ賴清徳總統の一年を検証されるということを、私達もしっかり見据えながら、我々も我々にできることにつきましても、対応していかねばならないという思いを強く持っているところであります。

今日は限られた時間ではありますが、大使閣下を中心にした素



晴らしい懇親会になればと思います。ご案内の通り、飲み物はたくさん用意してございますので、日本では盃を交わす、酒と酒の間を「酒間」といいますが、酒間の中に琴線に触れる交わりが繰り広げられることを楽しみにしております。

重ねて、李逸洋大使閣下に心から歓迎と敬意を、そして大使の平素のご精励に、最高の感謝の意を表し、開会の挨拶といたします。ありがとうございます。素晴らしいお花も、ありがとうございます。

【並木 正芳氏】

会長よりご挨拶を申し上げます。それでは、早速ですが、李逸洋大使よりご挨拶を賜りたく存じます。よろしく願いいたします。

【李 逸洋大使】

衛藤会長、諸先生方、来賓の皆様、こんばんは。本日は、日台親善協会懇親会にご招待いただき、誠にありがとうございます。まずは、本年二月に衛藤会長を団長として、日台親善協会の皆様を率いて台湾を訪問いただきました。この訪台は成功を収め、大変嬉しく思っています。衛藤会長には、長年にわたり台湾と日本の友好関係、そして台湾海峡の平和と安定に関心を寄せていただいていることに、深く感謝いたします。

台湾周辺の状況は、厳しさを増しており、中国の国的圧力が



続いています。こうした中で、衛藤会長と親善協会の皆さまが、台湾海峡の平和の重要性を発信していただいたことには、大変心強く感じております。

TSMCの熊本工場は、順調に稼働しており、台湾と日本の半導体分野における協力は、成功を収めました。台湾は、世界最先端チップの九〇％とA Iサーバーの九〇％を生産しています。日本の半導体設備は世界の三〇％、材料は五〇％を占めています。将来、米国の関税政策に対する国際貿易の新たな秩序の中心に対応するため、台湾と日本は半導体に加え、A I、ドローン、エネルギー、電気、衛星、次世代通信などの分野においても、産業連携を一層強化する必要があります。台湾と日本の協力は、経済的価値と技術発展において、ともに利益をこうむるものです。同時に、経済安全保障、国家戦略においても重要なパートナーです。

中国は、国連総会第二七八決議を根拠に、台湾の国連や全ての国際組織への参加を妨害しています。最近、アメリカが国連安全保障理事会で、「中国は台湾を孤立させるためなら、あらゆる手段を使い、各国の自由な選択を制限しようとしている」と強く批判しました。また、この決議は、台湾の国連や他の国

際会議への参加を排除していないことを、改めて強調していました。

貴協会は、長年にわたり、台湾の国際参加を支持してきました。これからも、台湾のCPTPP (Comprehensive and Progressive Agreement for Trans-Pacific Partnership…包括的及び先進的な環太平洋パートナーシップ協定)、WHO (World Health Organization…世界保健機関)、ICAO (International Civil Aviation Organization…国際民間航空機関) などへの参加や、日台EPA (Economic Partnership Agreement…経済連携協定) の実現に向けて、皆様のご支援をお願い申し上げます。

貴協会は、昔から台湾を力強く支持してくださり、このような友情や協力が、対日関係の深化を支える重要な基盤となっています。これからも、衛藤会長のリーダーシップのもと、貴協会と台湾の関係がさらに深まることを願っております。

結びになりますが、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げますとともに、台日関係の益々の



ご発展を祈念いたします。ありがとうございます。

お食事中ですが片山さつき先生がおいでになりましたので、一言ご挨拶をお願い申し上げます。

【片山 さつき氏】

日台の皆さま、改めましてこんばんは。いつも大変お世話になっております。今季は参議院で決算委員長を務めております。また、金融大国である台湾にちなみ、私は金融調査会長を四年務めておりますので、今期もどうぞよろしくお願いいたします。実は日本は、外国人の受け入れをかなり急速に進めてきたため、台湾に比べても、国内でどのようなルールがあり、どのようなルールに準拠してもらうのかが、やや曖昧な部分があります。

そこで、外国免許切替による事故が非常に多く、率直に申し上げて一番多いのが中華人民共和国やベトナムの方などです。右側通行・左ハンドルからの切替で、外免許替だけだとやはり正面衝突や曲がる際の事故が多い、と、今日新しく立ち上がった委員会、私たち幹部の前で警察庁が説明していました。

私が二〇〇五年に浜松の衆議院議員だったとき、日系ブラジル人の女性の方が、やはり切替免許で右折時に子どもをはねてしまい、その子どもが亡くなるという事件がありました。任意保険に入っていないため、そのままブラジルへ帰国し、逮捕できなかったということで、署名を一〇万か二〇万集めたほど

の大事件でした。

ですから、海外の方との付き合いというのは、良き隣人、良き友人であることが何よりも大切で、その基準が重要であることを台湾の方は厳しい国際情勢の中でよくご存知かと思えます。しかし、日本人は、時に驚くほどのんびりしていて、十分理解していない部分もありますので、これからは「グッドフェローズ」か「バッドフェローズ」かをきちんと見極めていく必要があります。実際に、地域ではさまざまな迷惑事項が発生しています。例えば、ゴミ出しの日でないのにゴミが出されたり、町内会費を全く払わず、いるのかいないのか分からない、などといったことが増えています。



台湾からの方は、永住者や帰化された方もたくさんいらっしゃいますが、そのようなことは全く聞いたことがありません。先進国のアジアというのは台湾だけなのかな、なんて言ったらシンガポールの方に怒られてしまうかもしれませんが、これから私たちもいろいろなことを大事にして、皆さんを見習い、作り上げていかなければならないことがたくさんあると議論してお

りました。

私も昨年は、賴清徳總統の就任式に出席させていただき、今年には八年ぶりにトランプ大統領の就任式にも行かせていただきました。案の定、関税がかかり、台湾以上に日本も大変な状況ですが、これまでも日米貿易摩擦を何とか四〇年ほど経験しておりますので、どこかに出口があるだろうと思いい、みんな必死に頑張っております。

これからもお互いに助け合い、交流を深めていきたいと思えます。なお、この度、台湾から帰化された方の戸籍の出身地が、正式に「台湾」と記載されることになりました。これも当然前のことですが、実現して大変うれしく思います。今後とも、どうぞよろしく願ひいたします。私も衛藤先輩と共に、この秋にはまた台湾を訪れたいと思いますので、よろしく願ひいたします。本日は、誠におめでとうございます。

まだまだお話は尽きないところだと思いますが、そろそろお時間となりましたので、締めに入らせていただきます。締めといえ、この会ではこの方、副会長の張碧華さんです。よろしく願ひいたします。

【張 碧華氏】

ついに締め時間となりました。ご指名により、暗黙の担当としてずっと締めをさせていただいております。本日の総会、特に総会では満場一致でスムーズに、無事に終了することができました。本当にご協力、ありがとうございます。ご承知のとおり、この頃は戦争や関税、お米の問題など、本当に心苦しく重苦しいニュースばかりです。ただ、日本と台湾のニュースはいつも明るく、先日も嬉しいニュースがついに発表されました。台日世論調査で、なんと八〇%近くが「日本に親しみを感ずる」「日本を信頼できる」と答えています。正確には七六点何%ですが、二位三位でも二〇%と大きく差が開いています。このままいけば九〇%も期待できます。本当に世界でも珍しい結果で、もしかしたら新記録ではないかと、これからが楽しみです。さらにもう一つ、嬉しいことは和歌山・白浜のパンダの話題です。パンダが送還されると話題になりましたが、今、白浜の町長は、子どもの前会長でもいらつしゃいます。あの人気のパンダのおかげで日本全国から注目され、大江先生も今、人氣が最高潮です。本当に運も良く、実力もあります。先日インタビューで「同じ価値観の台湾と関係強化したい」と話されていたのですが、素晴らしいご決断でした。実は昨年末、大江先生と電話でお話した際、「白浜においでよ、ご飯を奢るから一緒に食べよう!」とお誘いいただき「わかりました」とお答えしたままなのですが、これからは地方と台湾との関係も楽しみです。

ご存知のように日本と台湾の関係は、東日本大震災以降、互いに助け合い、尊敬し合い、感謝し合い、その理念やリズムがますます強くなっており、今後もますます発展していくことでしょう。本当に素晴らしい、楽しく、期待できます。私どもの会長も、今日「戦略的な関係や目的をこれから築きます」と申しておりましたが、もう一歩進んで、日本と台湾の素晴らしい関係を、これ以上ない夢のようなものにしていこうと、気持ちよく力強い会でございます。皆様のご協力に支えられ、本日もこのように盛会を迎えられましたことを、心より感謝申し上げます。それでは、日本台湾親善協会のますますのご発展と、ご臨席の皆様のご健勝を祈念しまして、三本締めとさせていただきます。

〓三本締め〓

ありがとうございます。
またよろしく願います。

本日はせっかく参議院議員で副会長の山本順三先生がお越しになられていますので、どうぞ一言お願いいたします。



【山本 順三氏】

本日、この場で皆さまとご一緒でき、大変光栄に存じます。日本と台湾の関係は、言うまでもなく、この東アジアの安全と平和のために、最も大切なものです。その責任は、皆さまお一人おひとりのご尽力に支えられていると思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

【並木 正芳氏】

本日は、代表処の皆様にも多数ご出席いただき、誠にありがとうございます。会員の皆様にも、お忙しい中、最後までご参加いただき、心より感謝申し上げます。それでは、皆様のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。これにて閉会とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。



春雨を右肩傘に 台北から台東へ

業務執行理事 榎本 有里(林 月理)

国立台湾大学附属医学院学術発表記

【血中酸素濃度改善における鍼治療の効果】

二〇二五年三月一五日・一六日に台北市内の台大医院国際会議センターにて開催された「第九五回国医節」および「第一七回台北国際中医薬学術フォーラム (Traditional Chinese Medicine International Forum)」では、世界各国より二二〇〇名を超える、日本からの参加者をはじめ、韓国、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、マレーシア、ブラジル、欧州各国、そして台湾の中医専門家が一堂に会し、中医学の現在と未来を語り合う貴重な場となりました。

開会式には頼清徳総統も臨席され、ご自身がCOVID-19に罹患した際に服用された「台湾清冠一号(漢方薬)」の効果を紹介されるなど、漢方の有用性が改めて強調されました。

私は今回、「血中酸素濃度改善における鍼治療の効果」という画期的なテーマを発表さ



せていただきました。特定の経穴への刺激が局所組織への酸素供給を促し、血中酸素飽和度の向上に寄与する可能性を示しました。この知見は、睡眠時無呼吸症候群による無呼吸状態・

いびきや高山病に伴う頭痛や息切れの緩和、さらにはアスリートにおける持久力向上にも応用が期待されます。

発表を終えた私は、台北から約三五〇km離れた台東県へと向かい、さらなる国際交流を深める旅を続けます。

国立台東大学講演記

【未病と薬食同源の智慧】

台東県国立台東大学は環境に優しい世界大学ランキングでも常に高評価を受けており、キャンパスには清々しい空気が漂い、訪れる者の心を穏やかにしてくれます。

特に目を引くのが大学図書館です。周囲の地形を巧みに活かして設計されたピラミッド型の建築は、まるで山のように見えながら、一冊の本が開かれているようにも見えます。青空と緑の丘に映える昼の姿は絵画のように美しく、夜には光を放ち、近未来的な趣を醸し出します。

この図書館は二〇一五年の完成以来、数々の建築賞を受賞し、世界的な建築サイト「Architizer.com」では「世界で最もユニークな図書館八選」に選ばれ、二〇一八年には世界不動産連盟の建築アワードで卓越賞を獲得。世界的に高く評価されています。

その美しい空間の中で開催された「国際的視野に関するレクチャーシリーズ」にて、私は【未病と薬食同源】をテーマに講演を行いました。講演では、東洋医学と西洋医学が捉える「未病」について次のように説明をしました。

【東洋医学の未病：検査に異常はないものの、腰痛・不眠・肩こりなど不調を感じる状態】

【西洋医学の未病：自覚症状はないが、高血圧や高血糖といった検査値に異常が見られる状態】

これらの未病は、現代社会におけるストレス、偏った食生活、運動不足などに起因します。講演の核心には、『黄帝内経』や『神農本草経』に記された「医食同源」の理念があります。「養生と食養は生命を養い、健康を維持するものであり、その本質は共通する」という古代の知恵は、現代の私たちにもなお有用です。

講演では具体的に以下のような食材の効能を紹介しました。

【クコの実：肝機能を助け、視力を改善。電子機器を多用する現代人に最適】

【ヤマイモ：脾を強め、気を補う。消化機能の低下に有効】

【黒ゴマ：腎を養い、髪を育てる。抜け毛や腰・膝の不調に】

【ユリの実・ナツメ・リュウガン・クコの実のお茶：香りが良く、心を鎮め、安眠を促進】

【ミカンの皮とヤマイモのお粥：胃腸の働きを整え、長年の不調に効果的】

今回二つの講演は、東洋医学の知恵を伝えるだけでなく、現代の生活に即した健康的なライフスタイルのヒントを提供する場となり、また、日台間における医療文化交流の深化、そして今後の学術協力への基盤づくりにもつながりました。

微力ながら私がいただいた講演報酬の全額を国立台東大学にて新たに予定されている野球場建設の基金として寄附させていただきました。教育環境の向上と、地域社会のさらなる発展にささやかながら貢献できることを大変光榮に思っております。

今後とも日台両国間の親善交流の深化に尽力してまいります。



令和七年

暑中お見舞い申し上げます

(順不同)

台北駐日經濟文化代表處 代表 李逸洋	公益財団法人 日本台湾交流協會 理事長 谷崎泰明	一般社団法人 日本台湾親善協會會長 前衆議院議員 衛藤征士郎 東京都港区赤坂三丁目九番一 新21世紀政治経済研究所代表 電話〇三(三五九五)〇〇〇三 FAX 〇三(三五九五)〇〇〇五	台北駐大阪經濟文化辦事處 處長 洪英傑 大阪市北区中之島二丁目三十一番八 中之島フェスティバルタワー一九F 電話 〇六(六二二七)八六二三
台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處長 范振國 横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話 〇四五(六四一)七七三七	台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處長 陳銘俊 福岡市中央区桜坂三丁目二二四二 電話 〇九二(七三四)二八一〇	台北駐日經濟文化代表處 那覇分處 處長 王端豐 那覇市久茂地三丁目一五一九 アルテビル那覇六階 電話 〇九八(八六二二)七〇〇八	台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處長 粘信士 札幌市中央区北四条四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話 〇一一(一二二二)二九三〇
衆議院議員 井上信治 東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館三一七号室 電話 〇三(三五〇八)七三二八	日華議員懇談会・幹事長代理 衆議院議員 金子恭之 東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館四一〇号室 電話 〇三(三五〇八)七四一〇	衆議院議員 古屋圭司 東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館四二三号室 電話 〇三(三五〇八)七四四〇 FAX 〇三(三五九二)九〇四〇	衆議院議員 前原誠司 東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館八〇九号室 電話 〇三(三五〇八)七一七一 FAX 〇三(三五九二)六六九六

令和七年

暑中お見舞い申し上げます

(順不同)

参議院議員 松下新平 東京都千代田区永田町二一四号室 参議院議員会館八二四号室 電話〇三(六五五〇)〇八二四 FAX〇三(六五五〇)〇八二四	前衆議院議員 なのはな法律事務所・所長弁護士 富田茂之 千葉市中央区中央四一三二一三 電話〇四三(二〇二)八〇七〇 FAX〇四三(二〇二)八〇七二	中華民國留日横濱華僑總會 會長 許耀庚 理監事 一同 神奈川県横濱市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八一)二二一四 FAX〇四五(二〇二)二八五五	学校法人 横濱中華學院 理事長 羅鴻健 校長 杜文劍 横濱市中区山下町一四二番 電話〇四五(六八一)三六〇八
東京国際大学 理事長・総長 倉田信靖 東京都新宿区高田馬場四一三二三	株式会社 五常光産 代表取締役 屋島 範光 東京都千代田区丸の内二一三一二 郵船ビルディング一階 電話〇三(五五三三)八六四八 FAX〇三(五五三三)八六四九	株式会社 ホテル横須賀 ホテルニューポートヨコスカ 代表取締役 長尾 和典 神奈川県横須賀市小川町二番地一三 電話〇四六(八二八)一一一一 FAX〇四六(八二八)一一一一	友盛貿易株式会社 代表取締役会長 鄭 尊仁 取締役社長 吳 栄浩 横濱市中区太田町二一三一 電話〇四五(二二六)二二九八 FAX〇四五(六六三)二二八九
オリオンビール株式会社 最高顧問 嘉手苺義男 沖縄県豊見城市字豊崎一四一一 電話〇九八(九一一)五二二九	日本会議 大分代表 広瀬 舜一 大分県大分市浜町東一組 電話〇九七(五三三)〇〇四四	株式会社 佐伯コミュニケーションズ 代表取締役社長 平岩 照正 大分県大分市広瀬町二一三二二 電話〇九七(五四三)一一一一 FAX〇九七(五五四)四〇二八	一般社団法人 日本台湾親善協会 副会長 張 建國

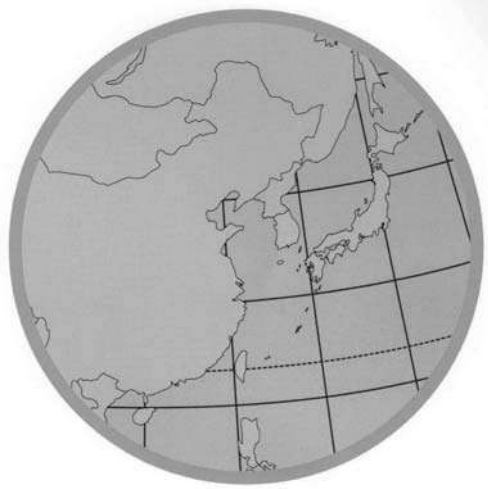
令和七年

暑中お見舞い申し上げます

(順不同)

一般社団法人 日本台湾親善協会 副会長 張 碧華 東京都千代田区外神田三―七―七 電話〇三(三二五七)〇〇三二	一般社団法人 日本台湾親善協会 副会長 並木 正芳 埼玉県所沢市上安松六二 電話〇四(二九四五)四八九一 FAX〇四(二九四五)八〇六一	元衆議院議員 一般社団法人 日本台湾親善協会 副会長 岩田 善信 東京都港区南青山五―六―九 サウス青山マンション五〇四号 電話〇三(三四〇九)七八八八 FAX〇三(三四〇九)九四〇五	一般社団法人 日本台湾親善協会 専務理事 税理士法人 アエル 会長 赤松 則宏 埼玉県越谷市蒲生西町一―三―六八 サテライトオフィスビル四〇三号 電話〇四八九(八五)〇二八五
一般社団法人 日本台湾親善協会 理事 森 康郎	学校法人 電子学園 日本電子専門学校 情報経営イノベーション専門職大学 理事長 多 忠貴 新宿区百人町一―二五―四 電話〇三(三三六三)七七六二 FAX〇三(三三六三)七六八五	新座どうぶつ病院 ホスピタリティを大切に、動物との暮らしをより豊かに 院長 榎本 貴文 埼玉県新座市野火止五―三―一一 (新座駅前) 電話〇四八(四七七)九〇一七	一般財団法人 栗田美術館 理事長 熊沢 正幸 栃木県足利市駒場町一五四二番地 電話〇二八四(九一)一〇二六 FAX〇二八四(九一)二一五三
児玉源太郎と学ぶ会 江の島児玉神社復活プロジェクト 発起人代表 浅見 哲 東京都千代田区九段北一―二―一八〇一 電話〇三(三二六五)七一〇〇 FAX〇三(三二六四)七一〇〇	明 石 散 人 中央区築地二―一五―一〇二〇八 電話〇三(三五四一)八八四八 携帯〇九〇(八八七二)四七七一	純和風蟹懷石料理 月夜岩 董事長 平岩 敏和 (平岩建設株式会社) 一〇四台北市中山區雙城街二五巷九號 電話〇二(二五八五)九二一一 URL:https://tsukiyoiwa.com	吉原歯科医院 院長 吉原 徹 埼玉県入間市扇町屋四―二―一八 電話〇四(二九六四)八二五五 FAX〇四(二九三六)七四九三

アジアの民主と平和 日台友好親善にあなたの力を！！



只今、会員を募集しております。

入 会 の 手 続 き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会の理事会の議を経て承認されます。

法人会費 50,000円以上

賛助会費 30,000円以上

個人会費 10,000円以上

季 刊 **亜 東** (アジアの架け橋) 令和七年 夏号 (No.94)

発行日 : 令和7年7月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印 刷 : 株式会社サンユー



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



Home page



Face book



Twitter



Instagram